

② 「外国語」改訂の要点

	新指導要領の内容	現行指導要領との違い
外国語の目標	<p>外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>●的確さや適切さが求められ、より実践的なコミュニケーション能力の養成が目標となった。</p>
科目編成	<p>コミュニケーション英語基礎（2単位） * 1単位まで減可 コミュニケーション英語Ⅰ（3単位） * 2単位まで減可 コミュニケーション英語Ⅱ（4単位） コミュニケーション英語Ⅲ（4単位） 英語表現Ⅰ（2単位） 英語表現Ⅱ（4単位） 英語会話（2単位）</p>	<p>●英語Ⅰ・Ⅱはコミュニケーション英語に、OCⅠ・Ⅱはコミュニケーション英語と英語会話と英語表現に、リーディングはコミュニケーション英語に、ライティングはコミュニケーション英語と英語表現にそれぞれ分化・統合された。</p>
各科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーション英語基礎—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的な能力を養う。 ●コミュニケーション英語Ⅰ—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 ●コミュニケーション英語Ⅱ—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 ●コミュニケーション英語Ⅲ—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。 ●英語表現Ⅰ—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 ●英語表現Ⅱ—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。 ●英語会話—英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、具体的な段階を踏んでより高次に至る目標設定がなされた。 ●英語表現では「多様な観点から考察」する客観性と「論理の展開や表現の方法を工夫」するなどのアカデミックな要素が重視され、英語会話との差別化が図られた。 ●英語会話では「身近な話題について」の日常的な会話能力の養成が明示され、英語表現との差別化が図られた。 ●全科目で「英語を通じて」の授業が前提とされた。

	新指導要領の内容	現行指導要領との違い
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">英語基礎の コミュニケーション</p>	<p>(1) 目標に基づき、中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(1)に示す言語活動を参照しつつ、適切な言語活動を英語で行う。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、それぞれの生徒の中学校における学習内容の定着の程度等を踏まえた上で、中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(2)のアに示す事項を参照しつつ、適切に指導するよう配慮するものとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学英語の延長線上に位置づけられ、高校英語への橋渡しとすることが示されている。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">コミュニケーション英語Ⅰの内容</p>	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。</p> <p>ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践する」という要素が加わり、実践的なコミュニケーション能力の養成が強調されている。 ● 「事物に関する紹介や対話」、「説明や物語」、「音読」、「簡潔に書く」など、具体的な活動内容が加わった。 ● 「話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりする」などコミュニケーションの上での具体的な注意点があげられている。 ● 「内容の要点を示す語句や文」、「つながりを示す語句」などに留意した精緻な読み書きが求められるようになった。 ● 「事実と意見などを区別」という文字が加わった。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">コミュニケーション英語Ⅱの内容</p>	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。</p> <p>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。</p> <p>ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。</p> <p>エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 前書きはコミュニケーション英語Ⅰと同文。 ● 「事物に関する紹介や報告、対話や討論」、「説明、評論、物語、随筆」、「速読や精読」、「暗唱」、「まとまりのある文章を書く」など具体的な活動内容が加わり、コミュニケーション英語Ⅰを発展させた内容となっている。 ● 「内容の展開」、「論点や根拠」、「文章の構成や図表との関連」、「未知の語の意味を推測」、「背景となる知識を活用」、「説明や描写の表現を工夫」することなどの具体的な活動内容が加わり、コミュニケーション英語Ⅰを発展させた内容となっている。

	新指導要領の内容	現行指導要領との違い
コミュニケーション英語Ⅲの内容	(1) 目標に基づき、「コミュニケーション英語Ⅱ」の2の(1)に示す言語活動を更に発展させて行う。 (2) (1)に示す言語活動を行うに当たっては、「コミュニケーション英語Ⅱ」の(2)と同様に配慮するものとする。	●コミュニケーション英語Ⅱの延長線上に位置づけられ、さらに発展させた内容となっている。
英語表現Ⅰの内容	(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。 ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。 イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。 (2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。 ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すこと。 イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書くこと。また、書いた内容を読み返すこと。 ウ 発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、実際に活用すること。 エ 聞いたり読んだりした内容について、そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理したり、自分の考えをまとめたりすること。	●前書きはコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱと同文。 ●「話す」ことや「書く」こと、「発表」することなど、自己発信の能力に焦点が当てられている。 ●「書いた内容を読み返す」「発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習する」など、自分の意見の発表が到達点とされている。 ●一方的な発表にとどまらず、「他の意見と比較して共通点や相違点を整理」することによって討論（英語表現Ⅱの内容）への橋渡しとなっている。

	新指導要領の内容	現行指導要領との違い
英語表現Ⅱの内容	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。</p> <p>イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。</p> <p>エ 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すこと。</p> <p>イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連、表現の工夫などを考えながら書くこと。また、書いた内容を読み返して推敲すること。</p> <p>ウ 発表の仕方や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを学習し、実際に活用すること。</p> <p>エ 相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して自分の考えを広げるとともに、課題の解決に向けて考えを生かし合うこと。</p>	<p>●前書きはコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰと同文。</p> <p>●「与えられた条件に合わせて即興で話す」、「論理的に話す」、「様々な種類の文章を書く」、など、英語表現Ⅰの活動内容を発展させた内容となっている。</p> <p>●「発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする」、「相手を説得するために意見を述べ合う」など、双方向のコミュニケーションに焦点が当てられている。</p> <p>●英語表現Ⅰの「発表」から「討論」へと発展し、自分の考えと他人の考えを還元し合うような双方向のコミュニケーションに焦点が当てられている。</p>
英語会話の内容	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。</p> <p>イ 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。</p> <p>エ 海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>イ 繰り返しを求めたり、言い換えたりするときなどに必要となる表現を活用すること。</p> <p>ウ ジェスチャーなどの非言語的なコミュニケーション手段の役割を理解し、場面や目的に応じて適切に用いること。</p>	<p>●前書きはコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ・Ⅱと同文。</p> <p>●「相手の話を聞いて理解する」「適切に応答する」「相手に質問する」「相手の質問に答える」「海外での生活に必要な基本的な表現を使う」など、日常会話レベルのコミュニケーション能力の養成に焦点が当てられている。</p> <p>●日常会話特有の言い回しやジェスチャーなど、実践的なコミュニケーション能力の養成に焦点が当てられている。</p>